7　義経記絵巻　土佐光成　一巻

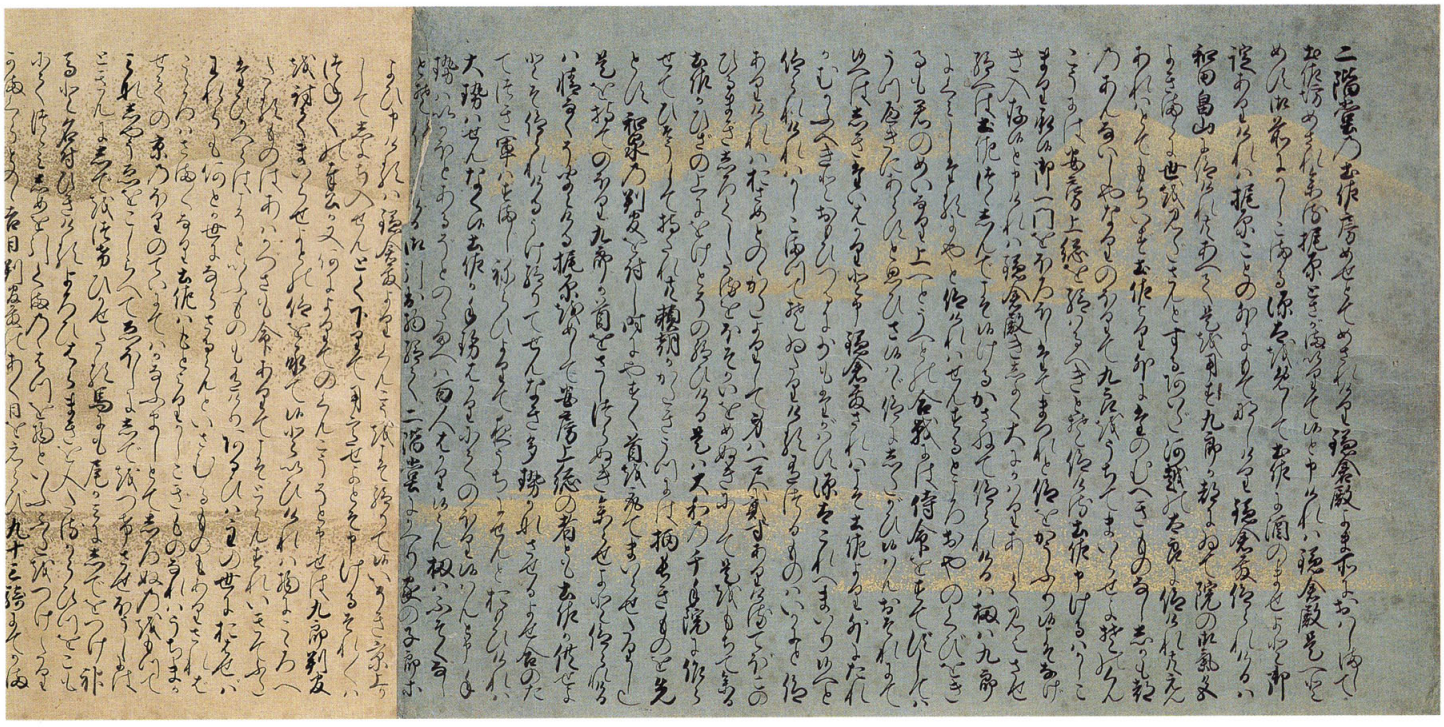
紙本着色　江戸時代（十七世紀）
縦三四・七　長一〇〇四・八

明治期の収納箱蓋表には「堀河夜討」と墨書されるが、絵巻自身には題簽がなく、また詞書文章は『義経記』（八巻）巻第四「土佐坊、義経の討手に上る事」に典拠している ことから、題名は「義経記絵巻」として紹介する。この題名の誤りは、幸若に「堀河夜討」と題されるものがあり、これが『平家物語』巻十二「土佐房被斬」とほぼ同じ展開を示し、『義経記』巻第四「土佐坊、義経の討手に上る事」と重なる内容であることから起ったのであろう。

物語の内容は、土佐坊は義経を討つように頼朝に命ぜられて都に向かうが、義経の家人・江田源三に怪しまれ、義経の命で乗り込んできた弁慶に捕らえられて尋問を受ける。そこで二心ないことを誓って起請文を書いて難を逃れる。しかしその夜、土佐坊は義経の館に討ち入る。静御前は熟睡していた義経を起して武具を着けさせ、自らも武装して共に戦い、弁慶らも駆けつけて、土佐坊は捕らえられ、六条河原で斬られた。

この内容が六段構成、挿図十二図で絵巻化されている。通常の絵巻とは異なり、一段分の詞書に対して二図あるいは三図の絵が挿入されている点に特色があり、それはほぼ三〇～三〇・五センチ幅の一紙に描かれて、まるで冊子本の挿絵のようである。このような特異な形態は、絵巻が『義経記』の文章を詞書に用いているために、通常の絵巻の詞書よりも展開内容が集約されていることにもその要因はあろう。また内容の典拠を同じくする幸若「堀河夜討」や謡曲「正尊」といった芸能による物語りの普及と、一方で冊子本など読み物による普及も重なって、物語りは形態にこだわらずにその展開を楽しむものであれば良かったのではないかとも考えられる。いずれにしてもこのような形態は、近世絵巻に見られる一つの特色と言えよう。

なお、絵師は第十二図の落款印章より、宮廷の絵所預となった土佐光成（一六四七～一七一〇）と知られ、本作品は光成が従五位下、刑部権大輔に叙任された元禄九年（一六九六）以降、十七世紀末の制作と考えられる。



巻首

弁慶、土佐坊を馬に乗せ、堀川館へ向かう　絵6

戦いに備えて馬の足を冷やす雑色たち　絵2

生け捕られた土佐坊、六条河原で斬られる　絵12

義経、静御前と共に、夜討ちをかけた土佐坊と戦う　絵9

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

近世絵巻の興起－〈物語り〉絵の諸相
三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 16
編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　大塚巧藝社
翻訳　鶴岡厚生
発行　宮内庁
平成九年七月五日発行
© 1997, Museum of the Imperial Collections